



# コタンメール 54号

平成 22 年 5 月 25 日 発行

## ソウル オッタ アコラシノツ アキ ルウェネ (ソウルでアイヌ古式舞踊公演)



韓国のソウル・フレンドシップ・フェア(2010年5月8日、9日)が開催され、白老からは飴谷町長を始め、18人の韓国訪問団が参加しました。

ソウル・フレンドシップ・フェアは今年で15周年を迎え、ロシア、メキシコ、中国など14カ国、17チームの約350名の公演団が参加し、世界各国の多彩な伝統踊りや文化が紹介され楽しまれている祭典です。

ソウル市庁前の広場で開かれた公演は、韓国の市民や観光客の熱い声援を受けながら、韓国では初めてとなるユネスコ無形文化遺産のアイヌ古式舞踊を披露しました。更に、来場者や参加公演団に当博物館の資料やムックルの配布、またムックルの体験などを行い、韓国でアイヌ古式舞踊や博物館の存在感を強く印象付ける機会となりました。



一方で、白老派遣団はソウル市と北海道との友好提携のため、ソウル市庁を表敬訪問、また韓国旅行会社にプロモーション活動も行い、白老の豊かな自然と食材、産業、アイヌ民族博物館のPR活動も積極的に行いました。

今回の訪問で、私は白老町の派遣団の皆さんが、当博物館の来客者が一番多い韓国を少しでも理解してもらえる良い機会だったのではないかと実感しました。

ソウルの暑い天気のもとで白老派遣団の皆さん！

本当にお疲れ様でした。

皆さんの汗一粒一粒が次につながると思っております。 (ぱくびよんぜ)

## 担い手育成講座通信 チセノミ（新築祝い）

今年もポロト湖畔に新しいチセ(伝統的家屋)が完成し、4月23日チセノミ「新築祝い」の神事が行われました。今回のチセノミの準備で私たち研修生は神事に使うトト(神酒)作りに参加させていただきました。米を軟らかめに炊き、人肌まで冷ましてから米と麴(こうじ)をまんべんなく混ぜていきます。そして、おいしいトトが出来るようにという祈りをあげてもらい、最後に火の神の加護をいただけるように、囲炉裏の炭を真ん中に入れて寝かせること5日間、とても美味しいトトが出来上がりました。

チセノミでは、窓のカムイに、この研修に千葉から参加している八幡さんが祈りを捧げました。トウキ(酒盃)を左手に持ち、右手に持ったイクパスイ(ほうしゅべら)の先端に神酒をつけて神々のいる方へ向けながら祈り言葉を述べます。そうすることで、イクパスイは人間の言葉を補い、神酒とともに神々のもとへ送り届けてくれるものと考えられています。

川村さん、木村さんはイヨマレ(神酒を注ぐ役目)を務めました。私は、男性陣が祈り終わったトウキを受け取り、炉鉤(ろかぎ)のカムイにお祈りをし、自分に憑(よ)っている憑(よ)き神に祈りをしてトトを頂きました。

祈りのあと、チセサンペトゥカンと呼ばれる、東西の屋根をめがけてヨモギの矢で射って悪神を追い払うという神事を行いました。刺さった矢はそのまますることによって、このチセを守ってくれます。

ハルランナは、このチセが食べ物に困らないようにというお祈りです。団子やお菓子を景気よくハルランナー！ハルランナー！と叫びながら撒(ま)きます。日本文化の餅まきに似ている神事です。最後に閉式の祈りで、このチセの今後の活動の安全を祈願する行事が終了しました。(ほりたえこ)



イヨマレを務める川村さん(左)と木村さん(右)



チセサンペトゥカンで屋根に矢を射る八幡さん

## ネア「お父さん」エウ！（あの「お父さん」がやって来た！）

ソフトバンクのCMに「お父さん」として登場する北海道犬カイ君が、5月5日のこどもの日に、東京から故郷のむかわ町に里帰りする途中でアイヌ民族博物館を訪れました。幸運にも居合わせた多くの来館者が「カイくん」と呼びながら、カメラ目線でのカイ君をねらい、一斉にシャッターを切っていました。カイ君は呼びかけに応じてポーズを取り、伶俐(れいり)で堂々としたその姿はさすがタレント犬！と思いきや、飼い主の天然記念物北海道犬保存会鶴川支部長の豊田さんに全身をすり寄せて甘える愛らしい一面も見せてくれました。(きだみずえ)

